能登半島地震・被災者支援プログラムの報告（第15回）

東京都・TVAC・CS-Tokyo

■日程：2024年7月31日（水）～8月3日（土）

■ボランティア参加者数：18名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
8月1日（木）	穴水町諸橋地区 諸橋仮設団地	8名
8月1日（木）	穴水町甲地区 兜公民館	23名
8月1日（木）	穴水町中居地区 住吉公民館	13名
8月1日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	15名
8月2日（金）	穴水町志ヶ浦地区 志ヶ浦コミュニティセンター	13名
8月2日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	60名
8月2日（金）	輪島市門前地区 皆月多目的集会所	28名
8月2日（金）	輪島市門前地区 浦上公民館	30名

■被災者の声（主なもの）

- ・ 発災後、公民館で100日間の避難生活。今は仮設にいるけど2年で出ないといけない。自分なんて今更どこに住んでもよい。でも、これから住むなら巡回バスとか走っている年寄りが住みやすいところで生活したい。
- ・ 家族が家にいるため、家のこともしなくてはいけないと感じており、今まではサロンの存在は知っていたが、自分だけ楽しんでいいのかと思い、参加できなかった。今回初めて参加した。
- ・ 震災後、1回も美容院に行っていない。1回もメイクしていない。
- ・ 夫が死んで孤独死するところだった。このサロンの手伝いをさせてくれてありがとう。門前のじじばばをありがとう。
- ・ 震災で近くのデイサービスが閉鎖され、隣町まで行っているが、知り合いがいなくなってしまった。
- ・ 解体したけど、地盤沈下と津波の影響で自分の土地に海水が入ってきてしまったため、家が建てられない。今後どうしようか困っている。
- ・ 歌が歌えて楽しかった。お互いに話をする機会は比較的ある。でも、大声で騒ぐ機会はありません。たぶん被災後で初めてじゃないかと思う。
- ・ 地面が凹凸しているのを見ると、心が不安になって体調が悪くなる。でも、病院には行っていない。
- ・ 仮設住宅に住んでいると、遠くから来てくれた親戚や知り合いが泊まる場所がないので、今年のお盆はどうしようか悩んでいる。
- ・ お祭りができない。担ぎ手がいらないから、もう続けることができないかも。
- ・ 県外の子どもに同居をすすめられたが、80年生きてきたこの土地を離れられない。最後までここに住んで、死にたい。
- ・ 仮設には娘と二人で住んでいる。移動の足がないから、娘が車を出してくれないとどこへも行けない。
- ・ 全壊なのに撤去の手続きを待たされている。早くしてくれないと、生活が前に進まない。待っているのがつらい。

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・ ひと時だけだったとしても、震災被災者として同じ経験をした者同士つながっていることについては、皆さん喜んでおられる様子でした。
- ・ サロンに来ている人も大切だが、来ていない人、来れない人がどうしても気になる。何かしら「見守っている」ということを伝えることは必要ではないかと感じる。